



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3  
TEL / FAX 024-567-5322Web <http://www.nposhalom.net>  
Email [info@nposhalom.net](mailto:info@nposhalom.net)

発行責任者：大竹静子

## 子どもひまわり大使ツアー 2017

### 京都・岡山・熊本&鳥根 夏に二箇所を実施

全国で栽培にご協力頂いている「ひまわりプロジェクト」。その現地を福島の子どもたちが訪問して交流するのが『子どもひまわり大使ツアー』です。二〇一七年度の夏季には三つのツアーが実施できることになりました。①自然体験で子ども達のリフレッシュの機会とし、②地元の方々との交流で福島の経験と想いを教訓として発信する。この二つをテーマに実施します。

京丹後ツアーと笠岡ツアーには福島県の「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」からの補助を得て実施します。風評や誤解を解き、福島の現状や課題を共有頂くことで今後の複合災害に備えた防災・減災意識を醸成することが目的です。

#### ●熊本・鳥根ツアー

熊本と鳥根を巡るツアーは六泊七日で実施。西日本を中心に消費者協同組合活動を展開しているグリーンコープさんのご支援がキーポイント。福島県の「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」か

らの補助金も活用します。

グリーンコープさんは広くひまわり栽培の協力先を募り、製品化されたひまわりオイル『みんなの手』の販売でも連携を深めて下さっています。全国の栽培拠点のうち約半数はグリーンコープさんのお声かけによるものです。日照に恵まれた大地に力強く花開くひまわりは、地道な共感の輪によって紡がれています。

現地をお訪ねし、豊かな自然に触れ、交流する。子どもたちが訪問することで活動の意義が再確認され、子どもたちの心にも思いやりや共感・行動といった市民意識の貴重な源泉が注がれることを期待しています。

#### ●京丹後ツアー

京丹後ツアーは六泊七日で実施。福島県の「ふるさと・きずな維持・再生支援事業」の他、西本願寺の「東日本大震災被災者受入助成金」、避難者支援を行う当事者団体みんなの手、丹後の自然を守る会のサポートを頂戴します。日本海での海水浴シーカヤッキング、農作業

体験は貴重な機会です。

地元の子ども達や行政関係者を含めた大人との交流で教訓を発信することは、再稼働される原発を若狭湾に抱えた地域の方々の命と健康を守るために役立つことでしょうか。万が一の原発事故の際には風下となり、高線量にさらされる可能性のある篠山市では市長さんにもお会いします。防災のための施策についてお聞きし、子どもたちが自分の経験を話しすることで、ひまわりプロジェクトに参加下さっている地元の皆さんも含めて共感の輪を広げることができると期待しています。

京都市内では私立橘中学校・高校を訪問。ひまわり大使と中高校生が共に京都在住の放射線防護学の専門家の特別講義をお聞きします。その後のディスカッションでは大使と高校生が原発事故からの教訓を振り返る時間を設けます。世界的な観光都市・京都は歴史と文化を守ってきました。地球温暖化問題に対応する京都議定書が結ばれた環境都市でもあり、福島の経験は貴重な教訓として発信されるものと考えています。

#### ●笠岡ツアー

岡山には宇宙少年団を中心としたメンバーが参加。東洋一とされる岡山天文台を訪問して知見を広めます。地元行政のご理解とご支援を頂戴し、八月六日には笠岡市主催の「ひまわりフェスティバル」にも参加。農

道空港など防災拠点としても機能する共通のインフラも含めて、市民同士が「自分にできること」を持ち寄る『ひまわりプロジェクト』のご縁をつなぎます。瀬戸内海に位置する笠岡諸島での自然体験や島巡りも楽しみます。

参加する子どもたちは計二十八名。その中には避難先で生活を送っている子どもも含まれます。放射能汚染によって汚されてしまった故郷の大地は、身近な環境の大切さについて気づき、これからの社会の在り方を学ばせたいと考えています。自分自身の経験を元に状況を読み解き、他者のために発信して役立てることで、東日本大震災と原発事故以降に頂戴した多くのご支援とご協力への恩返しに出来ればと考えています。福島の現状への正確な理解は、いじめや風評を払拭するための原資です。発生からの時間が経過する中で今一度足元を固め、次を見据えていくことは、今だからこそ希求されている活動だと考えています。

(災害支援センター 吉野)

